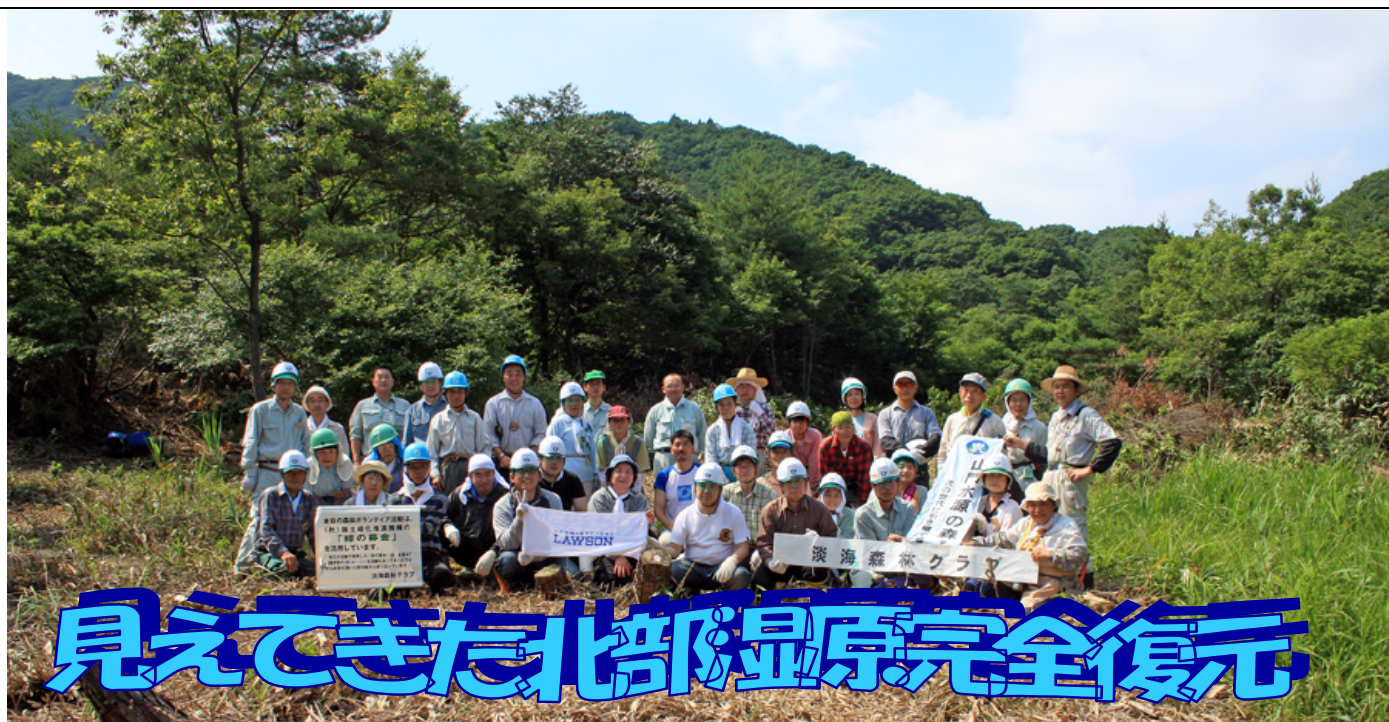


# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.104

2008/07/15

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 見えてきた北部湿原完全復元

炎天下の北部湿原復元作業を終えて・背後の山裾まであと少し (08/07/12)



これが北部湿原未復元の現況 (08/06/16)



ササ刈り・除伐作業 (08/07/12)



会員による復元作業 (08/06/28)

昨年から北部湿原復元作業のピッチが早まってきました。会員の保全活動日の増加とボランティア団体の協力回数・人数が増加したことが理由です。復元に取りかかった当初は、この広大な北部湿原が本当に湿原らしくなるのだろうかという疑問視されたものです。が着実に作業が進み完全復元までは、あと少しという所までこぎ着けられました。今年中の完全復元を目指して頑張りたいものです。

保全作業は、この他にも侵入雑草であるセイタカアワダチソウやオオキンケイギクの除去作業も進行しています。またササユリの果実保護のための金網再設置も効果があり、果実は日々大きくなっています。10月末の種子散布が待ち遠しいところです。加えて「保護区」の調査も継続されています。

8月の保全活動日は、8月30日(土)です。暑い時期ですがご参加宜しく。

「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」

<http://www.digitalsolution.co.jp/nature/yamakado/>





キフシスホコリ？全体像 (08/07/10)

『粘菌』が森に分布していることは、既報で書いたことがあり研究者も訪れたことがあった。粘菌は最初の段階には Mycetozen (Myceto=菌類的, zen=動物) という菌類とは別のグループとして扱われるようになったとのこと。その命名通りの「物」に四季の森で偶然遭遇したのが下の画像である。まさに「菌類的動物」が実感できた。さてこの種が何なのかの同定だが、インターネットや手元の「粘菌」(誠文堂新光社刊)で調べるのだが今一確実ではないがキフシスホコリではないかと。

森の生物多様性を常々問題にしている本会としては、こうした微生物にも目を届かせねばならないとなると並大抵のことではない。反面生態系の不思議さを再認識させてくれる存在でもある。



上の画像右上部分接写 14:10



14:19



14:24 (右上方向に移動している)



7/11 の状態



7/12 の状態 (孢子が放出されている)

1 日後には完全に移動は止まっており、2 日後には孢子が放出されていた。この粘菌の近くには、別の個体や粘菌とは別扱いしている原生粘菌類のツノホコリも同日みつきり、発生条件が揃っていたようである。

## ゲンジボタルも乱舞

2006 年「やまかど・森の楽舎」付近にホタルが生息しているのではないかとということで、それなら湿原にもということで夜間調査を行った(既報)。結果は見事なヘイケボタルの乱舞の確認となった。その後伊藤両会員の観察では、「やまかど・森の楽舎」付近にゲンジボタルがいるようだとのことだったが、再確認することなく今日に至った。7 月 6 日夜伊藤両会員が観察の結果、「楽舎」から県道までの川沿いにゲンジボタルが生息することが確認されました。来期は改めて「ホタル観察会」を実施したいものです。



PHOTO BY ITO

ササユリ終了後の森の見物は、例年通りモリアオガエルの産卵・トリアシショウマ・株数が増加したクサレダマ等々が続いているが、今年はイチヤクソウがブナの森より上部でかなりの株数開花した。他方楽舎では今ハッチョウトンボが最盛期に入り、日々

訪問者が歓声を上げています。湿地内の飛び石を使うと、直近でハッチョウトンボの成熟段階のいろいろな場面が観察できる。もちろんキイトンボの連結飛翔や産卵の観察・撮影も可能です。間もなく夏休みの自由研究の舞台となります。

## イチヤクソウ



(08/07/07)

## セイタカアワダチソウの実生

## 抜き取ったセイタカアワダチソウ



PHOTO BY ITO

## ゲンジボタル (08/07/06)



(08/07/07)